

資料

神奈川県感染症情報センターからの情報発信に対するホームページ閲覧状況の調査(令和6年4月～令和7年3月)

篠原良輔, 木村睦未, 伊藤 舞*, 藤井絵美,
兼任千恵, 石野珠紀, 関戸晴子

Research on website browsing status for information provided by the Kanagawa Prefecture Infectious Disease Information Center (April, 2024 - March, 2025)

Ryosuke SHINOHARA, Mutsumi KIMURA, Mai ITO, Emi FUJII, Chie KANETO, Tamaki ISHINO and Haruko SEKIDO

神奈川県衛生研究所に設置されている神奈川県感染症情報センターでは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき感染症発生動向調査を実施している。県内の患者情報や病原体情報を収集、分析し、医師会や保健所等の関係機関に情報を提供、公開することで、感染症の発生およびまん延の防止に寄与することを目的に活動している他、流行中の感染症について定期的な疫学情報、感染症に関する一般的な情報、時期や流行状況に応じた注意喚起を発信している。神奈川県では、令和6年から令和7年にかけて複数の感染症が流行しており、当該感染症に関する情報ははじめ、ホームページを通じて様々な情報発信をしてきた。一方、発信した情報がどの程度閲覧されているか、具体的な効果については測定していない。そこで、今後の情報提供への活用を目的として、令和6年4月～令和7年3月のホームページの閲覧状況を調査したので報告する。

1 流行した感染症に関する情報の閲覧状況

当所ホームページの閲覧数の解析には、神奈川県公式 Web サイトの閲覧数（神奈川県知事室集計）を用いた。過去の流行状況や地域の集積性を考慮し、特

に神奈川県内に広まっていたとみられる6疾患（インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）、RSウイルス感染症、手足口病、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎）とした。閲覧数は、各疾患における感染経路、症状、診断、治療および予防に関する情報が掲載されているページ（以下、疾患別情報）を対象とした。なお、COVID-19については、ゲノム解析モニタリングの結果や医療関係者向けの情報が掲載されている特設ページを対象とした。閲覧数および定点当たり報告数の推移を月別に集計し、図1～6に示した。また、一部の疾患では閲覧数が少なくグラフ表示できなかった月があり、該当疾患の図中に月毎の閲覧数を示した。集計期間は、定点当たり報告数の集計に合わせて令和6年第14週～令和7年第14週とした。

インフルエンザでは、閲覧数は4月～11月で約40～160件を推移していたが、12月に入ると約32万件と急増し、その後減少傾向となり2月～3月は約800～1,300件となった。定点当たり報告数についても12月に急増し、その後減少傾向となり閲覧数と同様の傾向を示した（図1）。

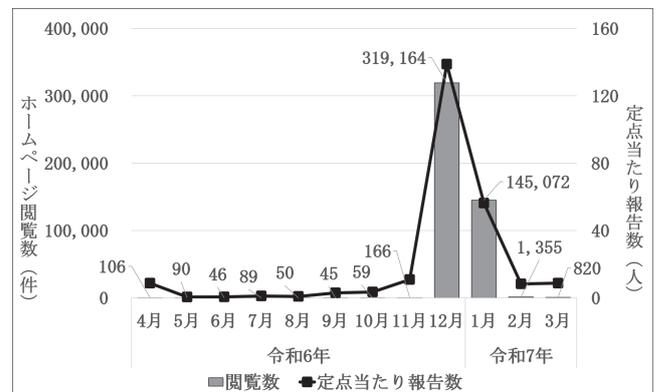


図1 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移（インフルエンザ）(令和6年第14週～令和7年第14週)

COVID-19では、閲覧数は7月にピークを示したが、それ以外の時期では横ばいであった。定点当たり報告数を見ると、閲覧数と同じく7月にピークを示しており、10月～11月の減少傾向を除いて、閲覧数と同様の傾向を示した（図2）。

RSウイルス感染症では、閲覧数は、4月を最多に6月まで減少が続いたが、7月には一旦約900件に増加した。その後11月まで減少が続き、12月以降はやや増加した。定点当たり報告数の動向は閲覧数と同様に推移したが、1月以降増加傾向にあり、閲覧

数との乖離を示した (図 3)。

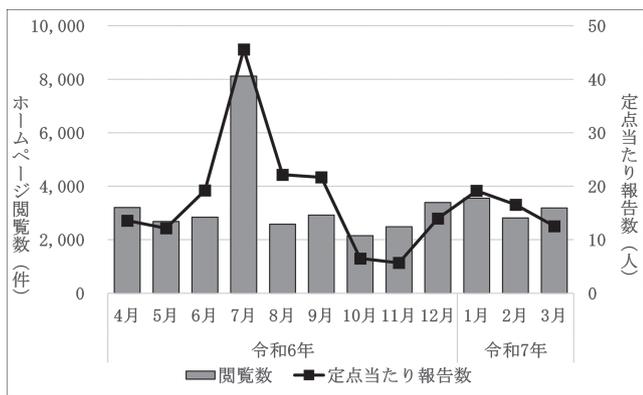


図 2 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移 (COVID-19) (令和 6 年第 14 週～令和 7 年第 14 週)

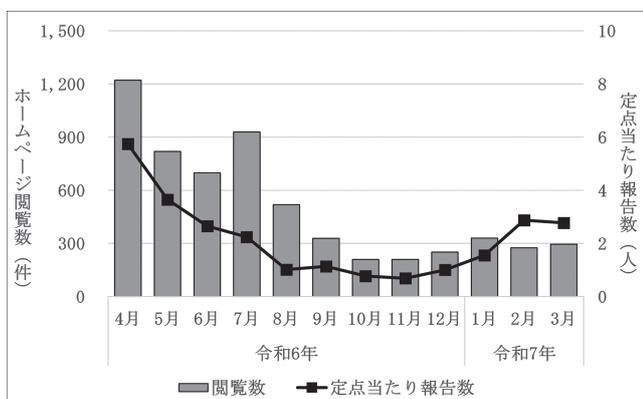


図 3 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移 (RS ウイルス感染症) (令和 6 年第 14 週～令和 7 年第 14 週)

手足口病では、閲覧数は 7 月にピークを示し、7 月以降は減少傾向を示した。一方、定点当たり報告数は、例年 7 月頃に一峰性のピークを示すが、令和 6 年は 9 月にもピークを示し、閲覧数との乖離を示した (図 4)。

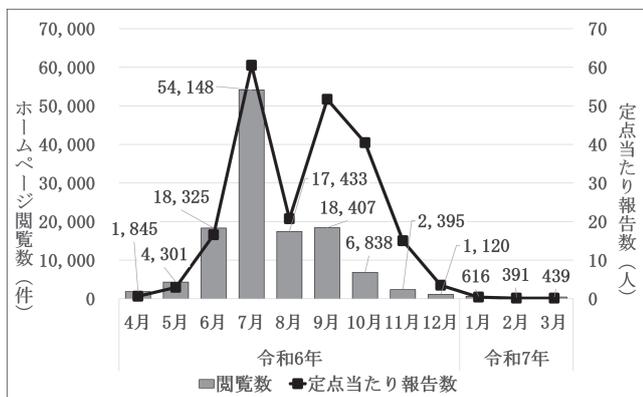


図 4 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移 (手足口病) (令和 6 年第 14 週～令和 7 年第 14 週)

伝染性紅斑では、閲覧数は 4 月～9 月は 0 件で推移したが、10 月から徐々に増加し、12 月に急増した。定点当たり報告数は、4 月から徐々に増加して 12 月にピークを迎え、閲覧数と同様の傾向を示した (図 5)。

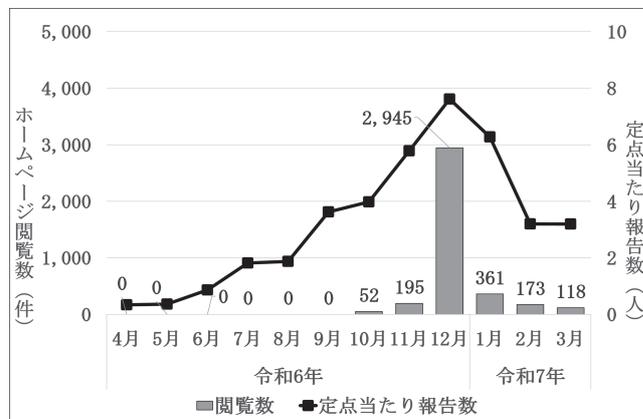


図 5 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移 (伝染性紅斑) (令和 6 年第 14 週～令和 7 年第 14 週)

マイコプラズマ肺炎では、閲覧数は 4 月～9 月で約 70～520 件を推移したが、10 月になると約 30 万件に急増した。定点当たり報告数は、6 月から増加して 9 月～11 月でピークを示し、特定の月で急増した閲覧数の傾向との乖離を示した (図 6)。

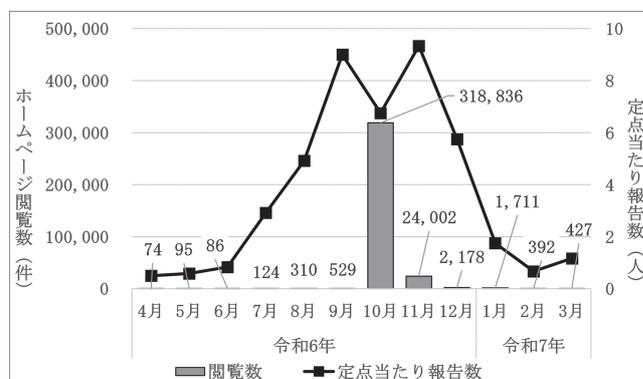


図 6 疾患別情報閲覧数および定点当たり報告数の月別推移 (マイコプラズマ肺炎) (令和 6 年第 14 週～令和 7 年第 14 週)

2 神奈川県感染症情報センターからの情報の閲覧状況

神奈川県感染症情報センターからの情報が集約された「感染症情報センター配下の全ページ」(https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center)で始まる全てのページ)を対象として、月別推移および閲覧数上位 10 ページ (以下, TOP10) を集計, 分析した。集計期間は令和 6 年度とした。

神奈川県感染症情報センター配下の全ページ閲覧数およびTOP10を示した(図7, 表1)。全ページの総閲覧数は3,731,133件であり、閲覧数の推移は、7月、10月および12月で計3回のピークが確認された。最も閲覧されたページは、7月が「感染症情報センターのトップページ」、10月が「疾患別情報 マイコプラズマ肺炎」、12月が「疾患別情報 インフルエンザ」であった。TOP10の総閲覧数は3,199,681件で、神奈川県感染症情報センター配下の全ページ総閲覧数の約85%を占めていた。

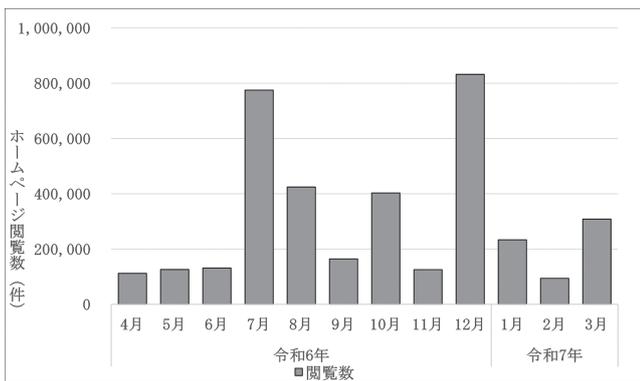


図7 感染症情報センター配下の全ページ閲覧数の月別推移 (令和6年度)

表1 感染症情報センター配下の全ページ閲覧数 TOP10 (令和6年度)

| | ページ名 | 閲覧数 |
|-----|---------------------------------------|-----------|
| 1位 | 感染症情報センターのトップページ | 1,193,288 |
| 2位 | 疾患別情報 インフルエンザ | 466,995 |
| 3位 | 疾患別情報 マイコプラズマ肺炎 | 348,705 |
| 4位 | 2024年(令和6年)週報及び当該週に流行した感染症の発生状況 | 313,601 |
| 5位 | 海外での感染症予防について ～夏休みに海外に渡航されるみなさんへ～ | 250,904 |
| 6位 | 海外での感染症予防について ～春休みに海外に渡航されるみなさんへ～ | 219,902 |
| 7位 | 海外での感染症予防について ～年末年始に海外に渡航されるみなさんへ～ | 184,066 |
| 8位 | 疾患別情報 手足口病 | 126,512 |
| 9位 | 2025年(令和7年)週報及び当該週に流行した感染症の発生状況 | 56,243 |
| 10位 | 新型コロナウイルス感染症について | 39,465 |

3 まとめ

神奈川県感染症情報センターから発信する情報に対する閲覧状況を調査したところ、ホームページの閲覧数は定点当たり報告数と概ね同様に推移していたが、一部の疾患では異なる動きが見られた。RSウイルス感染症では、7月は県内と比較して全国的に定点当たり報告数が多かった時期¹⁾でもあり、当該感染症に対する関心が閲覧数に影響していた可能性が推察された。当該感染症については週別、年齢別、保健所別に

動向をまとめたトピックス情報も発信しているが、3月の閲覧数を集計すると約460件であり、疾患別情報よりも多く閲覧されていたことが判明した。手足口病では、2回目の流行時、当所の疾患別情報の閲覧数は増加しなかったが、Google Trends(総検索数のうち任意の検索キーワードの検索需要の指標として「人気度」の解析結果が得られる)によると、「手足口病」のキーワードは7月および9月にピークが見られたことから、全国的に当該感染症への関心は高まっていたことが推察された。伝染性紅斑については、定点当たり報告数の増加を受けて、9月に川崎市が記者発表を実施した。この影響により、10月以降閲覧数が増加したと思われる。また、12月には神奈川県も記者発表を実施したため、12月以降の閲覧数が急増したと推察される。マイコプラズマ肺炎は、令和5年以前と比較すると令和6年ではかなり高い水準で県内の定点当たり報告数が推移²⁾しており、当該感染症に対する関心が高まっていたと考えられる。加えて、神奈川県公式ホームページにも疾患別情報のリンクを掲載したことで認知される機会が増えたと考えられ、一気に注目が集まった結果、特定の時期での閲覧数の急増に繋がったと推察された。

ひとたび感染症が流行すると発信している情報への関心が高まりやすくなる。全国など神奈川県以外の地域で流行が起きていた場合や、過去の傾向と比べて高い水準で流行が起きていた場合など、関心が高まる要因は様々である。神奈川県感染症情報センターから発信した情報は現在までに多数存在し、今後も増え続けることが予想される。神奈川県感染症情報センター配下の全ページ中、令和6年度に最も閲覧された「感染症情報センターのトップページ」は、神奈川県感染症情報センターからの様々な情報を集約している入り口である。そのため、読み手が必要な情報に辿り着けるように当該ページ内の情報を整理して伝わり易く発信することが大事であると考えられる。神奈川県庁感染症主管課(以下、本庁)では感染症の最新情報や状況を発信する公式LINEアカウントを保有しており、情報発信の際には感染症情報センターからのお知らせが紹介されることもある。ホームページのみならず本庁と連携してSNS(Social Networking Service)も活用し、今後も広報活動に注力していきたい。

謝辞

最後に感染症発生動向調査事業にご協力いただきました各医療機関、知事室、健康危機・感染症対策課、保健所、保健福祉事務所、地方衛生研究所の皆様に深

謝いたします.

(令和7年7月22日受理)

文献

- 1) 神奈川県衛生研究所:神奈川県感染症発生情報(31週報)
- 2) 神奈川県衛生研究所:神奈川県における発生状況
<https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center/0006_disease/disease_week.pdf#page=18> (2025/6/3 アクセス)